

志能加多と訓べし、方を師の倍と訓れたれど、か古は凡東西北北みな加多と云ことを多く添
 て云る例なり、十二道は十二國を云なり、國造本紀上毛野に東方十二國とあり、上の高志道も
 下文には高志國とあり、又孝德紀に、前以良家大夫使治東方八道、既而國司之任、六人奉法、二人
 違令云々とある、此に國司八人の事を云るにて、八道は八國なること明らけし、八國は此の十
國なるさて十二は何れの國々を合せたる數にか今さだかに知がたし、されどこゝろみに云
 は、伊勢國伊賀志摩は、此尾張、參河、遠江、駿河、甲斐、伊豆、相模、武藏、上總下總より分れたり、後常陸、陸
奥、倭建命段にも東方十二道とありて、蝦夷を言向たまひし事の見えたるをも思ふべし、又な
 るべきか、倭建命段にも東方十二道とあり、是上代の定めなりけむかし、さて國を道と云は、朝
 廷より其國を治めに人を遣すに就て云稱なり、先神代に、天尾羽張神の言に、恐之仕奉、然於此
 道者、僕子建御雷神可遣とあるは、天神の御使に答白し賜へる言にて、此道とは、葦原中國を言
 向に罷ことを云り、さて黒田宮段に、針間爲道口、以言向和吉備國とあるも、針間を言向る國の
 初とするを、爲道口と云るなり、又丹波道主と申す王の名も、丹波國を治めに遣され賜しに因
 て、道主とは申せるなり、此等其段々傳廿一の五十一葉を見て考合すべし、上に高志道とある
 道も此意なり、此を書紀には、北陸とあるに依て、たゞ後に云北陸されば後に、東海道東山道な
ど云名を建て、天下を總て、畿外を七道と分定められたるも、まづは漢國の制、唐太宗が時に彼
十道と定にならひ、且は上代より云來つる稱にも沿賜へる物なるべし、

〔古事記中景行〕爾天皇亦頻詔倭建命、言向和平東。方十二道之荒夫、琉神、乃摩都樓波奴人等、而副吉備

臣等之祖、名御鋸友耳、建日子而遣之時、給比比羅木之八尋矛、中自其入幸、悉言向荒夫、琉蝦夷等、

亦平、和山河荒神等、而還上幸時、到足柄之坂、本略中故登立其坂、三歎詔云、阿豆麻波夜、自阿下五故

號其國謂阿豆麻也、即自其國越出、甲斐、坐酒折宮之時、中自其國越科野國、乃言向科野之坂神、而